

## 三木里野菜塾【尾鷲市三木里地区】

- 福祉事業所の農業参入を契機に、障がい者と地域の農業者が連携して遊休農地を再生！
- 市街地への直売所の新設や定期的な移動販売の実施等により、農産物の販路を確保！

## 取組地域の概要

三木里地区は尾鷲市南部の賀田湾に面し、西は大台山系に接する自然豊かな集落である。熊野古道「八鬼山超え」や海水浴場「三木里ビーチ」があり、県内外から多くの観光客が訪れる。

半農半漁の集落で、山々に囲まれた傾斜地では、自家消費を主として、水稻や露地野菜が小規模で栽培されている。



三木里野菜塾メンバーの集合写真

## 取組の背景

獣害の拡大等により、耕作放棄地が増えていく中、平成 21 年、地元の建設会社を母体として「(株)やきやまふぁーむ(指定就労支援 A 型事業所)」が設立された。障がい者の雇用により、菌床椎茸の生産販売を主軸に農業経営をスタートし、農業経営を軌道に乗せるため、平成 23 年から、温室トマトの栽培とトマトケチャップの加工販売も開始した。

平成 27 年には、地域一体で 6 次産業化を推進していくため、「(株)やきやまふぁーむ」と、地区の農業者団体「三木里農業友の会」が連携して、地域協議会「三木里野菜塾」を結成した。

## 取組のポイント

## ポイント 1 福祉事業所による農業参入を契機に、遊休農地の再生活動が活性化

- ・(株)やきやまふぁーむの農業参入を契機に、獣害防止柵の整備等により獣害被害が軽減したこともあり、0.4ha まで減少していた農地の再生が進んだ。平成 29 年には約 2.6ha で伝統野菜(唐辛子、ヤツガシラ)や多品目の野菜が栽培されている。
- ・平成 29 年 1 月に初めて開催された「収穫祭」は、三木里野菜の魅力を地域内外に発信するとともに、障がい者と農業者との連携強化にもつながった。



遊休農地の再生

## ポイント 2 収益の確保をめざし、空き家を改修して農産物加工施設を整備

- ・地域資源の高付加価値化を図るため、平成 27 年度に空き家を改修して農産物加工施設を新設、地域の農業者グループ「三木里農業友の会」と「(株)やきやまふぁーむ」の連携により、三木里ブランドとして、「釜炒り茶」と「こんにやく」の販売を開始した。

## ポイント 3 直売所の開設や地域のニーズに応える移動販売により、販路を確保

- ・農産物の販路先を確保するため、平成 28 年に地区内の直売所に加え、尾鷲市街地に就労継続支援 B 型の事業所として直売所を新設している。また、高齢者の買い物ニーズに応え、市内での移動販売も継続し、販売チャンネルの多様化を図っている。

## 今後の展望

障がい者雇用と、消費者ニーズに沿った農産物の生産を両立させ、さらなる遊休農地の再生につなげていく。

## ◆本事例に関する問い合わせ先◆

三重県尾鷲農林水産事務所  
農政・農村基盤室地域農政課  
電話 0597-23-3498